アイヌの人々

アイヌは、北日本の先住民です。アイヌ文化は、自然界への敬意、狩猟採集の暮らしの歴史、そして周辺の諸文化との幅広い接触に根ざしています。アイヌは、独自の慣習・言語・信仰を有しています。

縄文時代の終わり（紀元前 500 年）以降、北海道の文化は、日本列島の他の地域とは別に発展していきました。南の本州・四国・九州では稲作が行われるようになりましたが、北海道では狩猟採集の暮らしが続きました。アイヌ文化は、この縄文文化から、オホーツク海周辺の北方社会および本州の社会との交易・接触を通して発展していったのでしょう。

釧路のアイヌは、釧路川沿いの村々に暮らしていました。江戸時代（1603～1867 年）後期の記録では、当時釧路川沿いには約 10 の村があり、それぞれに最大十数軒の住居があった、と記されています。